

本年度重点目標		評価指標	判定基準	集計結果	評価	分析(成果)(課題と改善策)
学びが楽しい学校づくり	【学びが楽しい学校づくり】 体験活動や学び合いを充実させ、学習への意欲の向上と自己肯定感を高める。	(児童アンケート) 「学校で学ぶことは、楽しいですか。」 ア 楽しい イ だいたい楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない (保護者アンケート) 「子どもは学校へ意欲的に登校していますか。」 ア 意欲的に登校している。 イ おおむね意欲的に登校している。 ウ あまり意欲的ではない。 エ 意欲的ではない。	児童アンケート・ 保護者アンケートともに A…アが90%以上 B…ア＋イが90%以上 C…ア＋イが80%以上 D…それ以下	(児童アンケートの結果) ア 77% ア＋イ 96% (保護者アンケートの結果) ア＋イ 95%	B	(成果) 児童アンケートで、ア＋イの割合を低学年と高学年に分けてみると、低学年が98%と高く、ほとんどの児童が学校で学ぶことを楽しいと感じている。高学年においても94%と高く、とても意欲的であると感じられる。保護者アンケートからも同様の結果が出ていることから、ほぼ学校に対する評価は高いと思われる。 (課題・改善点) 「先生は私たちの思いを聞いてくれる」や「先生はいじめなど困ったことについて考えてくれている」の項目では、高学年が97%と高いが、「授業でわからないことがあったら先生に質問しやすい」が89%と低く、学習面での低さが感じられる。このことから、学習への支援及び授業の雰囲気づくり、改善が必要であると考えられる。学習はわかることが楽しいにつながるので、より児童一人ひとりに寄り添ったきめ細かな指導をしていくことが大切である。
	【主体的に課題解決する児童の育成】(学校研究) 主体的に学び、課題解決へとつなげることができる児童を育成する。	(児童アンケート) 「単元で学んだことを、他の課題に生かすことができましたか。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった (教職員アンケート) 「単元の中で、児童は、課題を見つけていましたか。」 ア 見つけていた イ だいたい見つけていた ウ あまり見つけていなかった エ 見つけていなかった	児童アンケート・教職員アンケート A (児・教) ア＋イが90%以上 B (児・教) ア＋イが80%以上 C (児・教) ア＋イが70%以上 D それ以下	(児童アンケートの結果) 児童 ア＋イで 92% (職員アンケートの結果) 教職員 ア＋イで 80%	B	(成果) 児童アンケートによると、高学年は「ア＋イ」で98%、低学年で86%になっている。このことから、概ね児童は単元で学んだことを他の課題に生かしていることが分かる。特に高学年において、本校の取組の1つである「単元まるごと活用」の授業による成果であるとする。また、教職員は「単元の中で、児童は、課題を見つけていましたか」の問いに対して、80%が肯定的な回答をしていた。職員が大幅に変わってが、取組の共通理解が図られ、課題を見つけれられるような指導がされたと思われる。 (課題・改善点) 児童アンケートの結果から「他の課題に生かすことができましたか」という問いにウ・エと答えた児童が低学年に多く見られた。低学年においても、実態に応じて「単元まるごと活用」や「3問チャレンジ」の問題を吟味し、授業を行っていくことが大切である。また、日常生活と関連漬けた問題を位置づけ、児童が主体的に課題を見つける授業づくりを推進していく必要がある。
基礎・基本の定着と学力向上	【家庭学習の確立】 保護者と連携し、子どもたちの学習習慣を確立する。	(家庭学習調査結果) バランスアップカードをもとにした、家庭学習の目標 (低学年20分・中学年40分・高学年60分以上)達成者数 ア 80%以上 イ 70%以上 ウ 60%以上 エ 60%未満	A…ア B…イ C…ウ D…エ	(バランスアップカードの結果) 目標時間達成者は41名 で54.6% 低12/23 中17/26 高12/26	D	(成果) 低学年では52.1%、中学年では65.3%、高学年では46.2%の達成率であった。 (課題・改善点) 低学年では、引き続き、宿題の種類や量等に配慮しつつ、家庭学習を習慣づける取り組みを家庭の協力を得ながら続ける必要がある。特に1年生への家庭学習習慣の形成が大切である。 中学年では、家庭学習時間が低学年の2倍の40分になったことから、3年生の達成度が落ちている。低学年からの指導の積み重ねの成果はうかがえるが、個人差に応じた宿題量に難しさが達成度に表れていると見られる。 高学年では、家庭学習時間が中学年より20分延びて60分以上となったこともあるが、5年生の達成者が特に少なく、高学年としても46%であり、個人差に配慮しつつ、宿題の種類や量等に加え、毎日のものと日替わりのものを工夫していく必要がある。
	【道徳教育の充実】 自分を見つめ相手の立場を考え、仲良く助け合う児童を育成する。 (道徳の授業→道徳の授業では、振り返りを書いて、ノートに貼っている。)	(児童アンケート) 「人が困っているときは、進んで助けている。」 ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ そう思わない (職員アンケート) 「道徳の授業では、振り返りを書いて、ノートに貼っている。」 ア 9割以上行っている イ 9割未満	児童・職員アンケートで A…児ア＋イが90%以上かつ職アが100% B…児ア＋イが80%以上かつ職ア90%以上 C…児ア＋イが70%以上かつ職アが80%以上 D…それ以下	(児童アンケートの結果) 児童ア＋イで 96% (職員アンケートの結果) 教職員アで 100%	A	(成果) 低学年では、アが71%、ア＋イが95%の達成率であった。高学年では、アが70%、ア＋イが97%の達成率であった。全学年で見ると、ア＋イが96%の達成率であった。 職員は、アが100%。 (課題・改善点) 学校生活の中で、友達が困っていると進んで助けようとする児童の姿をよく目にする。特に、高学年は縦割り班での給食や清掃、行事等で非常によく低学年児童を助けている。しかし、アが低高合わせて約70%、イが約25%ということから、実際に行動しているも、助けているという実感がないのではないかとと思われる。児童同士が、助けてもらった時は、感謝の気持ちを伝えたり、教師が、児童の行動を認めたりすることが大切である。 校内研修で道徳ノートの書き方や評価のための必要性の共通理解をはかった。そのため、振り返りを欠かさず書くことができ、アが100%の結果となった。定期的に確認を行い、習慣化をはかりたい。
健康で心豊かな人間性の育成	【規範意識を高める】 社会的なルールやきまりを守る意識を高め、いじめや暴力行為のない学校をつくる。	(達成目標) (保護者アンケート) 「学校は、いじめや暴力行為のない学校づくりに努めていると思いますか。」 ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ あまり思わない エ 思わない (児童アンケート) 「児童会生活目標が守れましたか。」 ア できた イどちらかといえばできた ウ あまりできなかった エ できなかった	児童アンケート・ 保護者アンケートともに A…ア＋イが95%以上 B…ア＋イが85%以上 C…ア＋イが65%以上 D…それ以下	(児童アンケートの結果) 児童ア＋イで 94% (保護者アンケートの結果) 99%	B	(成果) いじめに関わる毎月のアンケートや各種アンケート、さらにその結果に応じたきめ細やかな対応を行った。また、いじめが疑われる事案に対しては、いじめ問題対策チームで組織的に対応することができた。7月には生活委員会主催による「いじめ撲滅集会」が行われ、飯田小学校からいじめをなくすために、友だちのいいところを見つけようと全校に呼びかけた。このような児童の様子が保護者からの高い評価にもつながっていると考えられる。 (課題・改善点) 生活委員会が提案する、児童会生活目標を意識して生活している児童が増えてきているが、更に全校児童の規範意識を高めるために、学級単位の取組や、縦割り班での取組を入れるなど工夫していきたい。また、規範意識の高まりによって、生活が「よりよくなった」という実感を持たせる工夫を委員会活動で取り入れていきたい。

